ＴＳ２０００ユーザーコマンド説明

ユーザーコマンド参考例（ＴＳ２０００＿ｔｃ．ｔｘｔ）

PS;MD<5+2,1=MD>

MD6<5>

PC<5+2,3=PC>

PC005<5>

IF<5+5,5=IF>

TX<5>

RM<5+3,4=RM1>

RX<5>

PC<5>

MD<5>

180,30,2

実機での確認がありませんのですべてコマンドマニュアルでの推測設定です。

実機でご確認、「ＴＳ２０００＿ｔｃ．ｔｘｔ」の修正をお願いします。

＜内容の詳細＞

１：現在モードの読出し

PS;MD<5+2,1=MD>

・・送信[MD],0.5秒待機,ｲﾝﾃﾞｯｸｽ2から1文字記憶,受信先頭文字[MD]（他の返信は無視）

最初のＰＳはリグが受信ポートのゴミ等でコマンドを正常に受信できない場合があるため、ダミーで送信しています。

MD	モードの設定、読み出し										パラメーター P1 0：未使用 1：LSB 2：USB 3：CW 4：FM 5：AM 6：FSK 7：CW-R 8：未使用 9：FSK-R
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
Set	M	D	P1	;							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
Read	M	D	;								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
Answer	M	D	P1	;							

（ts2000_pc_command_j.pdfより抜粋）

２：チューニングモード設定

MD6<5>

・・送信[MD6],0.5秒待機（返信は無視）

MD	モードの設定、読み出し										パラメーター P1 0：未使用 1：LSB 2：USB 3：CW 4：FM 5：AM 6：FSK 7：CW-R 8：未使用 9：FSK-R
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
Set	M	D	P1	;							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
Read	M	D	;								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
Answer	M	D	P1	;							

（ts2000_pc_command_j.pdfより抜粋）

３：チューニングモードにおける現在の出力読出し

PC<5+2,3=PC>

・・送信[PC],0.5秒待機,ｲﾝﾃﾞｯｸｽ2から3文字記憶,受信先頭文字[PC]（他の返信は無視）

PC	送信出力の設定、読み出し									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Set	P	C	P1	P1	P1	;				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Read	P	C	;							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Answer	P	C	P1	P1	P1	;				

パラメーター
P1
100Wタイプ
005～100、1ステップ(HF～144MHz帯のAMモード以外)
005～025、1ステップ(HF～144MHz帯のAMモード)
005～050、1ステップ(430MHz帯のAMモード以外)
005～013、1ステップ(430MHz帯のAMモードは013で12.5W設定)
50Wタイプ
005～050、1ステップ(HF～430MHz帯のAMモード以外)
AMモードは100Wタイプと同じです。
20Wタイプ
001～010、1ステップ(HF帯のAMモード以外)
001～020、1ステップ(50～430MHz帯のAMモード以外)
001～005、1ステップ(HF帯～430MHz帯のAMモード)
1200MHz帯（全タイプ共通）
001～010、1ステップ(AMモード以外)
001～003、1ステップ(AMモードは003で2.5W設定)
144MHzでPC051以上のコマンドを入力しても50Wになります。

（ts2000_pc_command_j.pdfより抜粋）

４：チューニング出力設定

PC005<5>

・・送信[PC005],0.5秒待機（返信は無視）

PC	送信出力の設定、読み出し									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Set	P	C	P1	P1	P1	;				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Read	P	C	;							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Answer	P	C	P1	P1	P1	;				

パラメーター
P1
100Wタイプ
005～100、1ステップ(HF～144MHz帯のAMモード以外)
005～025、1ステップ(HF～144MHz帯のAMモード)
005～050、1ステップ(430MHz帯のAMモード以外)
005～013、1ステップ(430MHz帯のAMモードは013で12.5W設定)
50Wタイプ
005～050、1ステップ(HF～430MHz帯のAMモード以外)
AMモードは100Wタイプと同じです。
20Wタイプ
001～010、1ステップ(HF帯のAMモード以外)
001～020、1ステップ(50～430MHz帯のAMモード以外)
001～005、1ステップ(HF帯～430MHz帯のAMモード)
1200MHz帯（全タイプ共通）
001～010、1ステップ(AMモード以外)
001～003、1ステップ(AMモードは003で2.5W設定)
144MHzでPC051以上のコマンドを入力しても50Wになります。

（ts2000_pc_command_j.pdfより抜粋）

５：現在の周波数読出し

IF<5+5,5=IF>

・・送信[IF],0.5秒待機,ｲﾝﾃﾞｯｸｽ5から5文字記憶,受信先頭文字[IF]（他の返信は無視）

IF	セットの状態の読み出し									
Set										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Read	I	F	;							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Answer	I	F	P1	P1	P1	P1	P1	P1	P1	P1
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	P1	P1	P1	P2	P2	P2	P2	P2	P3	P3
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	P3	P3	P3	P4	P5	P6	P7	P7	P8	P9
	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
	P10	P11	P12	P13	P14	P14	P15	;		

パラメーター
P1：表示周波数を1kHzオーダーで11桁表示
例：00014175000=14.175MHz
P2：スペース
P3：RIT/XIT周波数と±を1Hzオーダーで5桁表示＋はスペースでも代用可。例：＋5320=5.32kHz
P4：0=RIT OFF、1=RIT ON
P5：0=XIT OFF、1=XIT ON
P6、P7：バンク指定、チャンネルNo.(MCコマンドパラメータ参照)
P8：0=RX、1=TX
P9：モード(MDコマンドパラメータ参照)
P10：ファンクション(FR/FTコマンドパラメータ参照)
P11：スキャン状態(SCコマンドパラメータ参照)
P12：スプリット状態(SPコマンドパラメータ参照)
P13：0=OFF、1=TONE、2=CTCSS、3=DCS
P14：01～39TONE番号(TNコマンドパラメータ参照)
P15：オフセット（OSコマンドパラメータ参照）

・操作バンド側の情報を返します。ただし、サブ・バンドのときは、サブ・バンドに無関係な情報は無視します。

（ts2000_pc_command_j.pdfより抜粋）

６：送信の開始

TX<5>

・・送信[TX],0.5秒待機（返信は無視）

RX/TX	送受信状態の設定									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Set	R/T	X	;							
Read										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Answer	R/T	X	P1	;						

パラメーター
P1
0：メイン・バンドの受信／送信
1：サブ・バンドの受信／送信

（ts2000_pc_command_j.pdfより抜粋）

７：ＳＷＲ値の読出し・・・（ＡＨ４インターフェース時は非実行）

RM<5+3,4=RM1>

・・送信[RM6],0.5秒待機,ｲﾝﾃﾞｯｸｽ3から3文字記憶,受信先頭文字[RM]（他の返信は無視）

RM	メーター選択、メーター値読み出し										パラメーター P1 メーター選択 0：非選択（設定不可） 1：SWR 2：COMP 3：ALC 4：未使用 5：未使用 6：未使用 P2 メーター値。メーター表示上のドット数を示します。 0000～0030
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
Set	R	M	P1	;							
Read	R	M	;								
Answer	R	M	P1	P2	P2	P2	P2	;			

（ts2000_pc_command_j.pdfより抜粋）

注：ここでの設定はリグ液晶表示のメーター種別設定で、読出しは「ＲＭ；」を送信すると「RM1XXXX; RM2XXXX; RM3XXXX;」と３つ返信される（RM1XXXXがＳＷＲ値）

・・・推測です（リグがありませんので、おそらく４８０と同じと思われます）

８：受信に移行

RX<5>

・・送信[RX],0.5秒待機（返信は無視）

RX/TX	送受信状態の設定										パラメーター P1 0：メイン・バンドの受信／送信 1：サブ・バンドの受信／送信
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
Set	R/T	X	;								
Read											
Answer	R/T	X	P1	;							

（ts2000_pc_command_j.pdfより抜粋）

９：チューニングモード出力の復元

PC<5>

・・送信[PC$$$]($$$:③での受信文字列),0.5秒待機（返信は無視）

PC	送信出力の設定、読み出し									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Set	P	C	P1	P1	P1	;				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Read	P	C	;							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Answer	P	C	P1	P1	P1	;				

パラメーター
P1
100Wタイプ
005～100、1ステップ(HF～144MHz帯のAMモード以外)
005～025、1ステップ(HF～144MHz帯のAMモード)
005～050、1ステップ(430MHz帯のAMモード以外)
005～013、1ステップ(430MHz帯のAMモードは013で12.5W設定)
50Wタイプ
005～050、1ステップ(HF～430MHz帯のAMモード以外)
AMモードは100Wタイプと同じです。
20Wタイプ
001～010、1ステップ(HF帯のAMモード以外)
001～020、1ステップ(50～430MHz帯のAMモード以外)
001～005、1ステップ(HF帯～430MHz帯のAMモード)
1200MHz帯（全タイプ共通）
001～010、1ステップ(AMモード以外)
001～003、1ステップ(AMモードは003で2.5W設定)
144MHzでPC051以上のコマンドを入力しても50Wになります。

（ts2000_pc_command_j.pdfより抜粋）

１０：モードの復元

MD<5>

・・送信[MD$]($:①での受信文字列),0.5秒待機（返信は無視）

MD	モードの設定、読み出し									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Set	M	D	P1	;						
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Read	M	D	;							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Answer	M	D	P1	;						

パラメーター
P1
0：未使用
1：LSB
2：USB
3：CW
4：FM
5：AM
6：FSK
7：CW-R
8：未使用
9：FSK-R

（ts2000_pc_command_j.pdfより抜粋）

＊：ＳＷＲ読出し時の完了検出パラメータ

180,30,2　　Ｎ，ｎ、Ｍ

Ｎ：読出し10回での値の総和がこの設定値以下になればＳＷＲが下がったと判断

ｎ：読出し10回での値の変化値の総和がこの設定値以下ならほぼ安定と判断

Ｍ：Ｙａｅｓｕ＝０、ＩＣＯＭ＝１、Ｋｅｎｗｏｏｄ＝２を指定してください

N:180、n:30は例としての値です・・・実機調査・メーカー問合せで決定必要です。

Ｎは大まかにはＳＷＲ値２．５のリグ返信値×１０を設定

ｎは１回目と２回目の変化値＋２回目と３回目の変化値＋・・９回目と１０回目の変化値として変化した値の総和を計算します。30設定の場合はここの変化が3程度のばらつきでほぼ安定したと判断します。

上記の設定でＳＷＲが２．５以下でほぼ安定すればチューニングＯＫと判断です。

・・・ＴＳ２０００はフルスケールで30とされていますので15~20程度がＳＷＲ２．５？